
携帯電話の儀式

直江 アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

携帯電話の儀式

【Nコード】

N6534B

【作者名】

直江 アキ

【あらすじ】

毎晩、寝る前に僕は携帯電話を充電器につないで、儀式をする。
明日のために……

ずっと手が届くとばかりに思っていた。

見えていた距離は一步踏み出せば越えられる近さだと思い込んでいた。

儚いモノだった。

本当は遠かった。

何故あんなに簡単に放り出すことが、出来た？

何故あの距離を自ら越えようと、しなかった？

時間があるから？ まだ伝えなくてもいいと思ったから？ 今が

心地よかったから？

そうして何もせずにただ眺めていた。

もう何年も前の、昔の話。

夜、寝る前の最近の儀式。携帯電話を充電器につないで、電話帳から検索する。

光るディスプレイに浮かぶ名前に苦笑した。

漢字でたった二文字。

見ているだけで、笑顔が脳裏に蘇る。少し特徴のある声と話し方が耳に騒めく。

あの頃はなんの気兼ねもなく押せた通話ボタンが、少し恨めしい。毎日だって電話していた。用なんてなかったけれど、くだらない話で毎晩盛り上がった。

今となったらそれすら懐かしい。

何故、気付けなかったのか？

こうして開いてしまった距離を修復することがどんなに困難か、わかっていなかった。

忙しいかもしれない。

誰かといえるかもしれない。

かも カモ……そうやって最もらしく理由をつけて、ただ逃げていた。

怖いから。

不安だったから。

先が知れないから、見ないふりをして、遮断して、友達だっと思
い込んだ。

相手の出方を待つ前に、もっと潔く。

そうしていれば、距離を感じる今はなかっただろう。

距離 それは後悔 後から悔いても時は……戻らない。

毎晩の儀式はこうして僕を悔いのない人生へと運んでいく。
チャンスの神様は前髪しかないのだ、と教えてくれたのは君だっ
た。

そして君がいてくれたおかげで僕は身を持って体感した。

もう何年も前の使えなくなった携帯電話を充電器から外して、僕
は眠りにつく。

先を恐がって、後悔することだけはしないように、明日もまた精
一杯頑張ろうと……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6534b/>

携帯電話の儀式

2011年1月28日02時45分発行